

2005年度
甲南21クリエイティブ・プラン

環境啓発活動による環境意識の向上と 循環型コミュニティの創造

- ISO・環境ボランティア・環境創造・国際ネットワーク化を通じて -

甲南大学文学部 谷口ゼミナール
代表 谷本 悠一郎 他35名

1. はじめに

これまでの活動

- ・ 2001年度 「甲南大学における循環型コミュニティの創造」
- ・ 2002年度 「甲南大学における循環型社会の創造と
パートナーシップ」
- ・ 2003年度 「甲南大学における『持続可能な』
循環型コミュニティの創造」
- ・ 2004年度 「環境創造活動の推進と
環境教育とモデルプログラム・教材の作成」

今年度(2005年度)の活動主旨

これまでの活動成果と経験をもとに、より広範囲に活動を展開

- ・ 学内：ISO14001の認証取得
- ・ 学外：環境ボランティア活動
環境創造活動
国際ネットワーク化の推進

2. プロジェクトの概要

プラン : ISO認証取得可能なキャンパスの創造
- 学内連携を通じて -

プラン : 環境ボランティア活動
- 甲南学園三法人・県立尼崎北高等学校との連携
および「あいな里山村」再生ボランティア -

プラン : 環境創造活動の推進
- 2004年度までの活動を継続・発展させて -

プラン : 国際ネットワーク化の推進
- グローバルな視点からの環境意識の向上 -

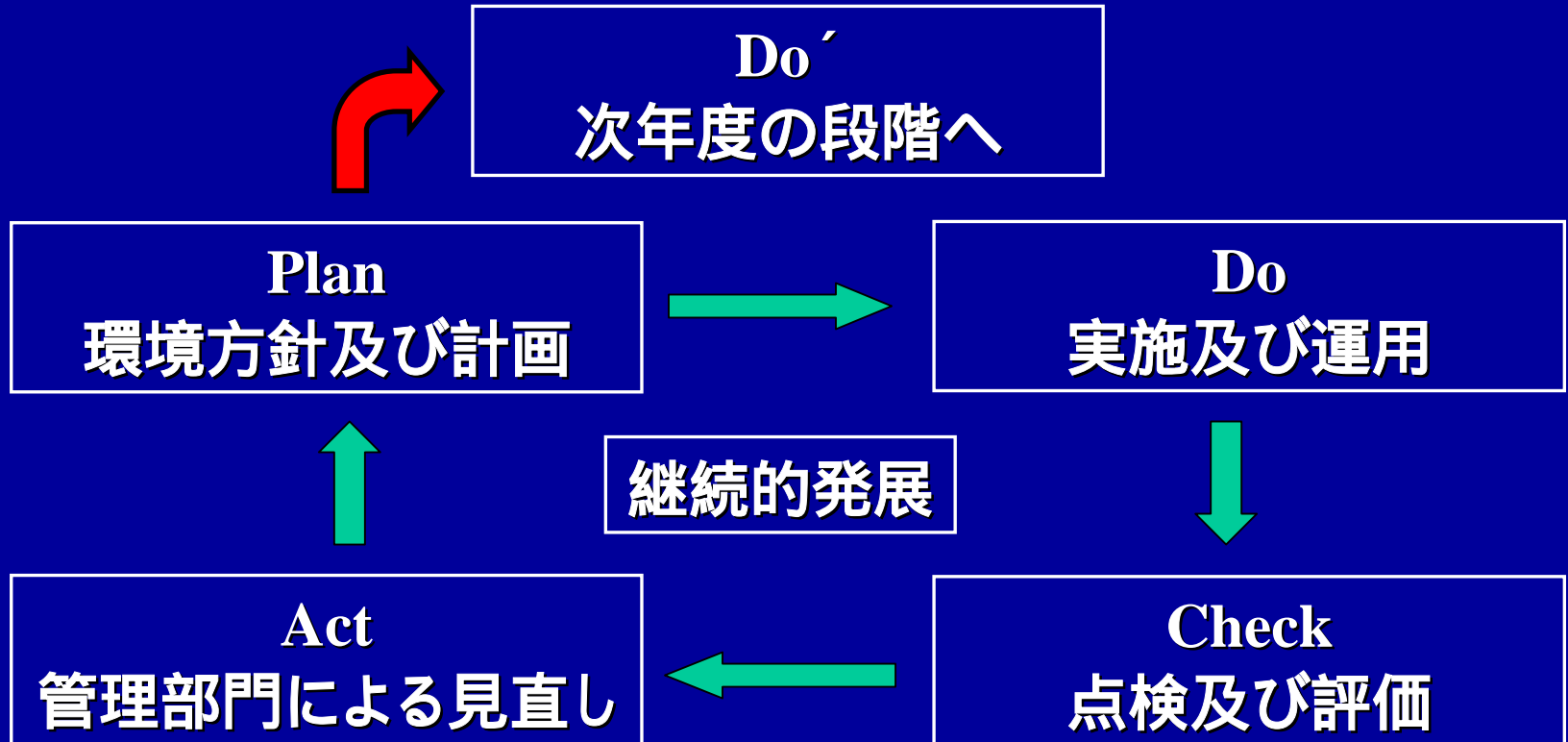
3. 実施方法

プラン : ISO認証取得可能なキャンパスの創造
- 学内連携を通じて -

- (1) 省エネルギー・省資源委員会「推進委員会」への参加
- (2) 学内の環境に対する意識調査
- (3) 学内における環境活動
- (4) 学外との交流による情報収集
- (5) ISO委員会の発足準備

ISO (International Organization for Standardization) とは

- ・ 国際標準化機構が定める「環境マネジメント規格」
- ・ 第三者による客観的な認証制度
- ・ PDCAサイクル(環境マネジメントの管理)

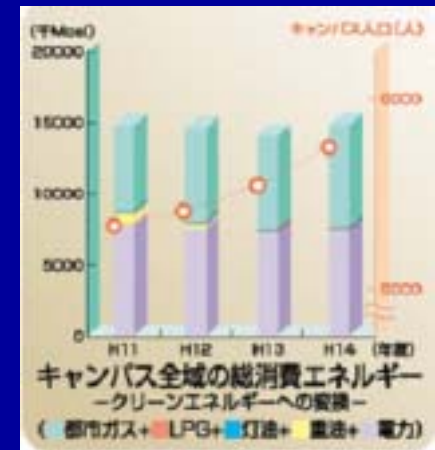
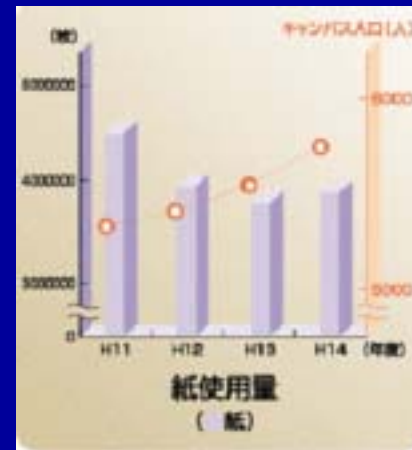
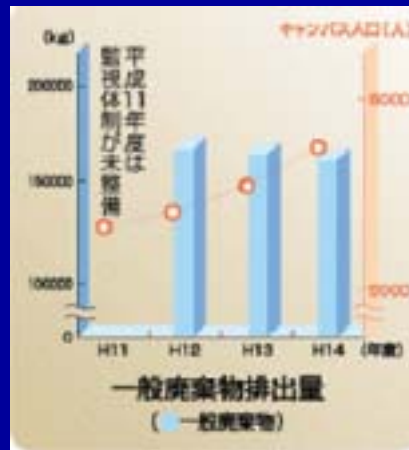
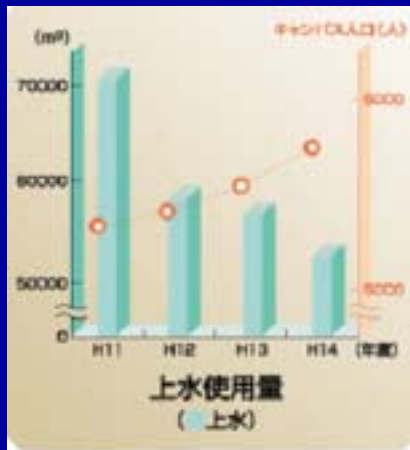


ISO認証取得の効果

- ・ 省エネルギー・省資源の推進
- ・ 循環型キャンパスの創造
- ・ 環境活動の普及・発展
- ・ 環境教育カリキュラムの充実

が可能となる

日本工業大学ISO認証取得前後の推移



(1) 省エネルギー・省資源委員会「推進委員会」への参加

大学内組織と学生によるネットワークの形成

学生という立場から、学内の環境に関する状況や動向についての情報を「推進委員会」に伝える

「推進委員会」は学生・教職員への情報提供ができ、ISO委員会の母体となる



管財課へのインタビュー



生協・自治会中央委員会
とのリサイクル会議

(2004年10月)

(2) 学内の環境意識に対する意識調査

前期・後期のアンケート調査

- ・ 前期アンケート(7月)
環境意識の現状を確認する
問題点を明確にする
- ・ 後期アンケート(11月)
今年度行なった活動によって
学生の環境意識がどの程度
向上しているのかを見直す

学生と教職員の環境に
対する意識の現状の把握

今後のISO認証取得に向けた
活動の資料として活用

CUC環境意識アンケート
CUCは環境教育に力を入れており、2003年3月31日にISO14001（環境マネジメントシステム）の認証を取得しました。そこで、新入生の皆さんに、以下の環境意識調査を実施します。現在の率直な気持ちをお答えください。

千葉商科大学について

① あなたは、千葉商科大学が環境教育を重視していることを知っていましたか。
① 知っていた ②聞いたような気がする ③知らなかった

② あなたは環境問題に関心がありますか。
① ある ②あまりない ③ない

③ あなたは、高校時代に環境改善活動やボランティアに参加したことがありますか。
① ある ②学校の授業の一環としてある ③まったくない

④ あなたは、ISO14001とは何か知っていますか。
①知っている ②内容は知らないが言葉だけは知っている ③知らない

「環境が大学を元気にする
- 学生がとったISO14001 -」
(アンケート一部分抜粋)

生協「情報パック」、生協「ホームページ」にアンケート結果を公表

- ・ 学生・教職員がアンケート内容を振り返る機会を提供



生協「情報パック」
(2004年12月号)



生協「ホームページ」
(2005年4月号)

[2001年度4月号以降、記事を担当]

[冊子からホームページへ転換]

(3) 学内における環境活動 (2001年度からの継続)

ゴミ分別、花いっぱい、リサイクル活動の推進

・ ゴミの分別活動



クリーン活動(2005年4月)

・ 花いっぱい活動



花の植え替え(2004年10月)

・ リサイクル活動 (摂津祭)



リサイクル風景(2003年11月)



回収された容器(2004年11月)

「環境啓発シンポジウム」(2005年度 第5回 開催予定)の支援

- ・ 学内における省エネルギー・省資源のデータを学生に報告
- ・ 学内環境の維持・管理を行なっている企業とのパートナーシップの推進



要旨集(第1～4回)



パネリスト(2004年10月)



谷口ゼミ生による発表



専門科目「環境学基礎論」
受講生による質問

(4) 学外との交流による情報収集

ISO認証取得した学校、生協、企業へのインタビュー

ISO認証取得までの経過と、成果についてのヒアリング調査

質問内容:

学生・教職員に対する合意形成の方法

ISO認証取得計画(環境マニュアル)の立て方 など

甲南大学におけるISO認証取得のための環境意識の向上や、
学内コンセンサスのための基盤整備に活用

訪問予定学校・生協・企業

- ・ 京都精華大学
- ・ 神戸国際大学
- ・ 阪神地区の大学生協 など

(5) ISO委員会の発足とスケジュール(2005年度)

省エネルギー・省資源「推進委員会」を母体とした
ISO委員会設立のための準備委員会の発足(6月初旬)

ISO委員会(学生12名、教員2名、職員2名、清掃・造園業者3名、
生協1名)の組織作り(6月初旬)

予算案の作成(10月)

学内の学生・組織間がもつ環境に関する情報の共有の調査
(7月、11月にアンケート)

ISO認証の準備経過をテーマに「第5回 啓発シンポジウム」を行なう
(12月)

環境マネジメント・マニュアルの作成準備会議(1月～3月)

ISO委員会の発足後(2006年度以降)

環境マネジメント・マニュアルの作成

ISO認証取得公開シンポジウムの企画、開催

マニュアル実施結果についての中間評価 など

} を予定

プラン : 環境ボランティア活動

- 甲南学園三法人・県立尼崎北高等学校との連携
および「あいな里山村」再生ボランティア -

(1) 甲南小学校との環境教育キャンプ

(2) 県立尼崎北高等学校「環境類型」への高大連携の支援

(3) 「あいな里山公園」における環境教育活動のボランティア

(1) 甲南小学校との環境教育キャンプ

甲南大学環境教育野外施設(広野)において
甲南小学校の児童・教職員と共に行なう(2泊3日)

環境教育カウンセラーとして指導

- ・ 住居作り
- ・ 火おこし
- ・ 米作り
- ・ 野菜の収穫 など

環境教育キャンプの目的

- ・ 自然の恵みや、生命の尊さを体感する
- ・ 児童が自然に触れる体験をサポートする



10年教育経験者研修(兵庫県教育
委員会)へのサポート(2004年8月)



甲南小学校児童への指導
(2004年10月)

(3) 「あいな里山公園(240ha)」(国営明石海峡公園神戸地区) における環境教育活動のボランティア

「あいな里山村」再生への協力: 歴史地理調査

地元住民に文化伝承をヒアリングし、それを復活(農村歌舞伎など)

「不耕起農業」による米作りの田んぼの整地

里山村、植物園、エコミュージアム開設のための協力

目的として、「あいな里山村」再生ボランティアを通じて、国営公園
(国土交通省)レベルにおける環境教育活動の実施可能性を知る



あいなの地図



フィールド視察(2004年4月)

プラン : 環境創造活動の推進

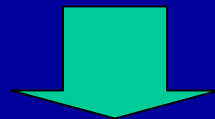
- 2004年度までの活動を継続・発展させて -

- (1) 伝統的農法による米・野菜作り
- (2) 自給自足生活の体験学習
- (3) ミミズコンポストの活用
- (4) 花いっぱい活動

(1) 伝統的農法による米・野菜作り

- 環境教育野外施設(広野)において -

- ・ 米と野菜の生長を世話し、自然のリズムを感じ、生命の大切さを学ぶ
- ・ 伝統的農法に見られる知恵や、動植物の生命を大切にし、その場所の自然環境を最大限に活かした土地の利用
- ・ 赤米や五穀などの作付けを通じて日本の伝統文化を再評価する
- ・ 「現代の食環境」について考え直す



無農薬・有機農業による持続可能な循環型農業
(パーマカルチュア)

- ・ 米と野菜は次のプラン「自給自足生活の体験学習」の食料にも使用

・「野菜作り」によって、生命の大切さを学ぶ



堆肥撒き・畑作り (2005年4月)



畝立て (2005年4月)



苗植え (2004年5月)



収穫 (2004年8月)

・「米作り」によって、自然のリズムを体感する(2004年度)



田植え(甲南小学校 6月)



稲刈り(甲南女子中学校 10月)



脱穀(甲南小学校 10月)



収穫祭(甲南幼稚園 12月)

(2) 自給自足生活の体験学習

循環型コミュニティの原型を体験

- ・ 2003年度、2004年度
主に住居作り、水質調査、火おこし、を体験
モデルプログラム・教材を作成
- ・ 今年度(2005年度)
これまでの活動の継続
雨水の有効活用、動植物の観察・調査を
行なうモデルプログラム・教材を改訂

現代のライフスタイルを見直す

- ・ 体験学習時に記録(写真、ビデオ、日記)をとる
- ・ 日の出、日没のリズムで生活する
- ・ モデルプログラム・教材を蓄積する



住居作り(2003年度)



薪拾い(2003年度)

・ 2004年8月18日 ~ 22日 (4泊5日)



住居



ろ過装置



水質調査



火おこし



ジャガイモ、プチトマト、タマネギのスープ



環境教育野外施設の夕陽

(3) ミミズコンポスの活用

2004年度 ミミズにより年間約160kgの生ゴミを処理し、肥料とした
今年度 肥料の有効活用や、さらに大量の生ゴミの処理を目指す

ミミズによりできた肥料の有効活用

- ・花いっぱい活動や野菜を育てる際に使用



ミミズ・コンポスト



ミミズ

データ収集

- ・ 生ゴミの処理時間
- ・ 肥料の生成量
- ・ ミミズの繁殖量 など

ミミズ・コンポストを設置している学校や施設への見学

- ・ 神戸市立春日野小学校
- ・ 株式会社ビズ・コーポレーション など



カフェ・パンセから出た生ゴミ



データ収集(生ゴミの重さを量る)

(4)花いっぱい活動



3号館横の花壇(2005年4月)



花の手入れ(2005年4月)



憩いの広場の花壇(2005年4月)



花の植え替え(2004年10月)

プラン : 国際ネットワーク化の推進

- グローバルな視点からの環境意識の向上 -

(1) 国際学生テレビ会議の開催

(2) 海外へのエコツアー

(3) 淡路島モンキーセンターにおける奇形ザル共同調査

(1) 国際学生テレビ会議の開催

2004年度(2005年3月)

- ・ タイのプラナコーン・ラジャバド大学に機材を設置
- ・ テレビ会議を試験的に行ない、有効性を確認

今年度

- ・ 甲南大学、プラナコーン・ラジャバド大学(タイ)、ヴィクトリア大学(カナダ)間で大学院生レベルでの学生テレビ会議を開催予定

海外における地球環境問題の現状と取り組みについて知り、国際ネットワークを構築する



日本側: 甲南大学



タイ側: プラナコーン・ラジャバド大学

(2) 海外へのエコツアー

国立公園や国際環境教育機関(UNESCOなど)を訪問する

先住民の伝統的な生活様式、文化に触れる

ネイチャートレイルによる自然体験を行なう

国際的で多様な視野を身につけ、「世界に通じる」青年
(創設者・平生鈇三郎)を目指す



先住民・Dr.メアリーによる口承
(カナダ:フィールドコース)(2003年7月)



ネイチャートレイル
(タイ:ドイ・インタノン国立公園)(2005年3月)

(3) 淡路島モンキーセンターにおける奇形ザル共同調査

奇形ザルの発生や現状について継続調査(1983年より)

海外の大学院生(カルガリー大学大学院生)との共同調査

環境教育の教材作成とデータベース化

環境教育野外施設で収穫した無農薬サツマイモの寄贈



奇形ザル



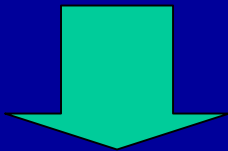
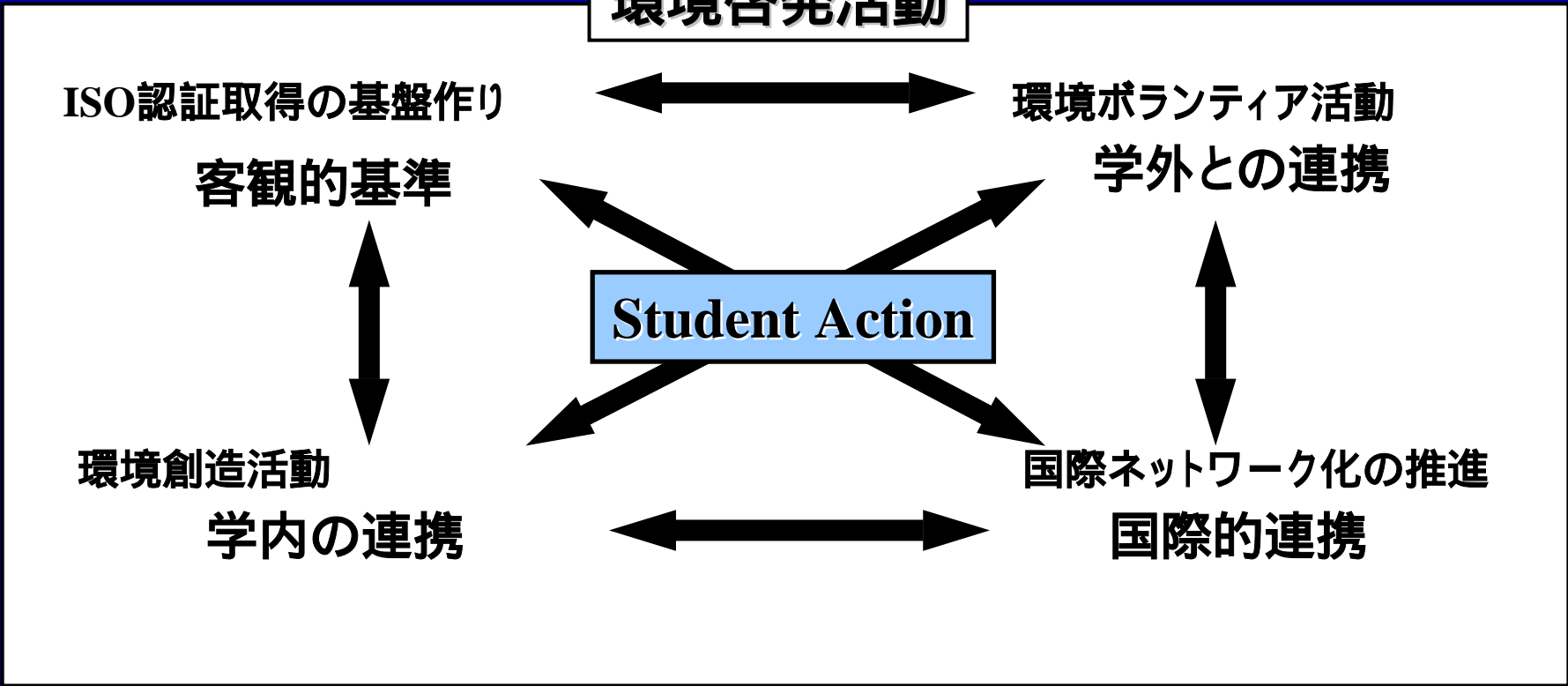
サラ・ターナーとの共同調査



サラさん(カルガリー大学)と
甲南生

(2004年7月)

4. 終わりに



ISO認証取得への努力による環境意識の向上
甲南大学における持続可能な循環型コミュニティの創造